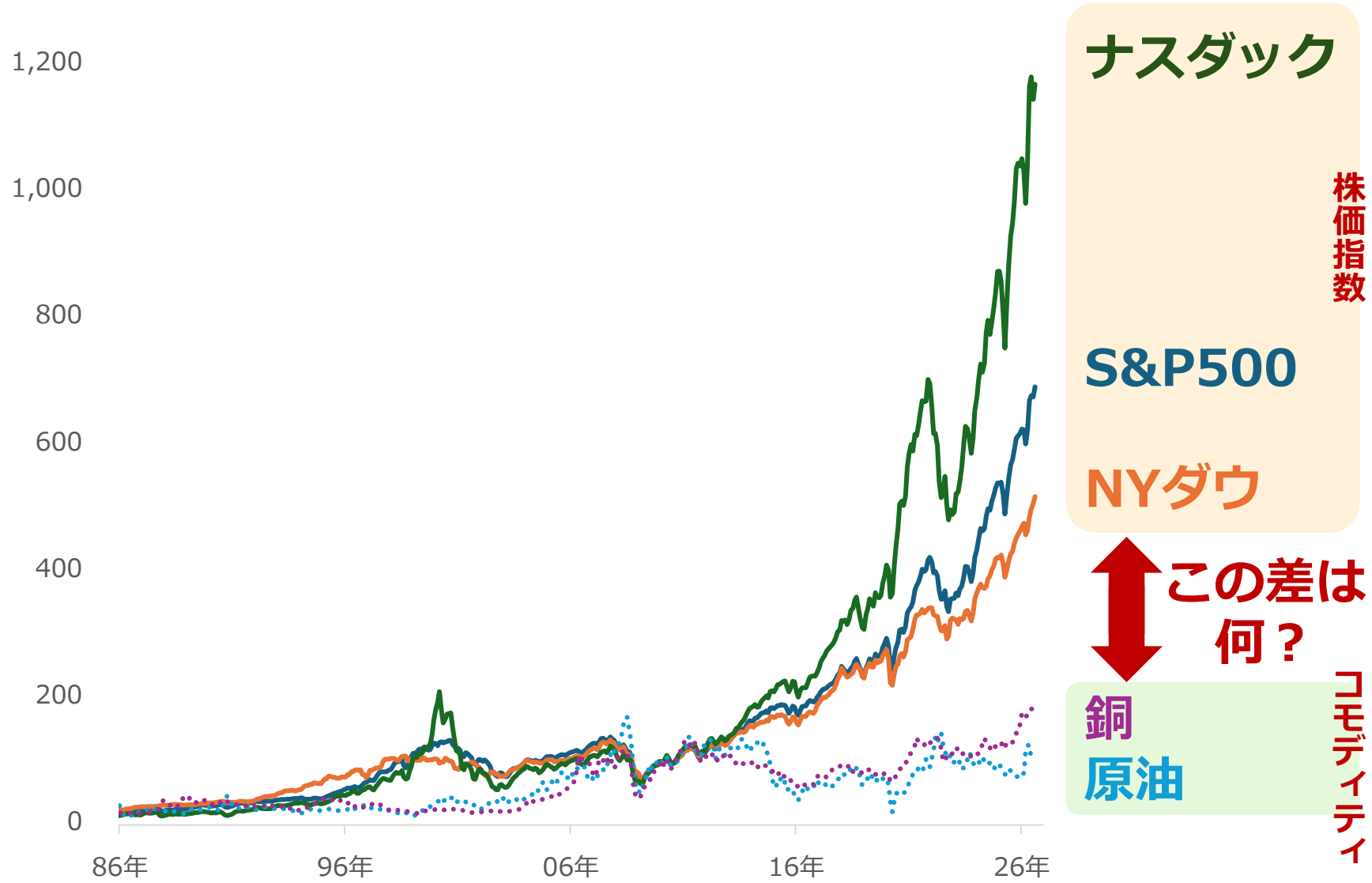


● 米主要三株価指数および原油・銅価格の推移（2010年1月を100として指数化）



出所：世界銀行、Investing.comのデータをもとに筆者作成

米主要三株価指数と主要コモディティ（原油・銅）の価格推移に明確な差あり

● NYダウのセクター別の構成銘柄数の変遷

セクター	1975年	2000年	2025年	1975年 →2025年
情報技術	0	4	6	+6
金融	0	3	5	+5
ヘルスケア	0	2	4	+4
コミュニケーション・サービス	1	3	2	+1
生活必需品	4	4	3	-1
資本財・サービス	5	6	4	-1
一般消費財・サービス	6	4	4	-2
エネルギー	3	1	1	-2
素材	11	3	1	-10
(合計)	30	30	30	+0

出所：各種情報源をもとに筆者作成

NYダウの柱は 素材・エネルギー → IT台頭 → IT・金融 と変遷した。

● 金融業界の重鎮たちが述べた言葉（実話）

- （１） 株式市場では戦争は終わった。（2026年前半）
- （２） （株価は）半年から１年先の思惑を織り込んで動く。
- （３） アナリストは芸能人でなければならない。
- （４） お客様が読みたいと思うレポートを書こう。
- （５） 「みんなでやっている」、弱気は言うな！！
- （６） （株価指数が）下がったらみんな困るでしょう？

**株価指数の世界が「思惑」でできていることを 重鎮たちから教わった。
「経済的ポピュリズム」とどう違うか？**

出所：実体験をもとに筆者作成

金融業における使命は「思惑」を醸成することなのか？

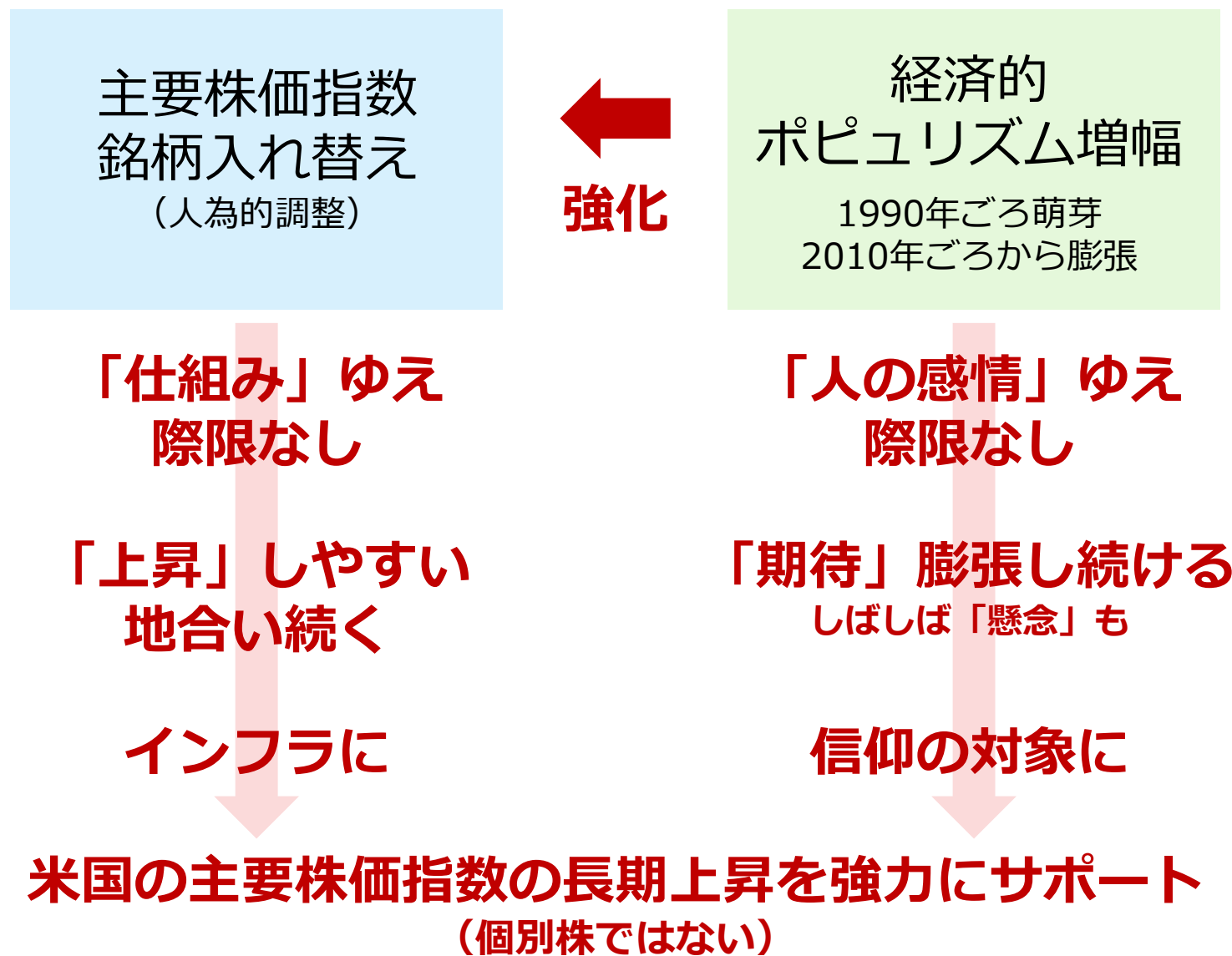
● SNSがもたらす社会・経済への影響（一例）

No	SNS	社会への影響	経済への影響
1	感情が噴出する	怒り・不満が急速に共有される	給付・減税・補助金を求める圧力
2	待てない	即時解決を求める	構造改革より即効性のある政策
3	見たいものだけ見る	確証バイアスが強まる	政策の副作用・財源を軽視
4	複雑さを嫌う	単純な説明が支持される	関税・減税など分かりやすい政策
5	感覚を優先する	統計より生活実感を重視	体感物価を意識した物価対策
6	比較が容易	格差・不公平感が増幅する	再分配・給付・最低賃金引き上げ
7	敵・味方に分ける	「誰かが得をしている」という意識	富裕層・企業・外国への課税・規制
8	自分・自国を優先する	国際協調への支持が低下する	保護主義・関税・国内産業支援
9	専門知を軽視する	専門家・官僚への不信が強まる	財政規律・中央銀行の独立性への圧力
10	短期的評価を求める	選挙・世論への即応が重視される	長期政策より短期的な景気刺激策

出所：筆者作成

SNS → 感情・比較・単純化・即時性 → 待てない社会 → 経済的ポピュリズム

● コモディティアナリストが考える米主要株価指数の長期上昇の背景



出所：筆者作成

もはや米主要株価指数は「インフラ」であり「信仰の対象」。

● 長期視点の金（ゴールド）市場を取り巻く環境

中長期

(4) 宝飾需要

(5) 鉱山会社

(6) 中央銀行

2010年以降、以下の「非伝統的な有事」がきっかけと見られる全体的な買い越し継続

超長期

(7) 非伝統的な有事

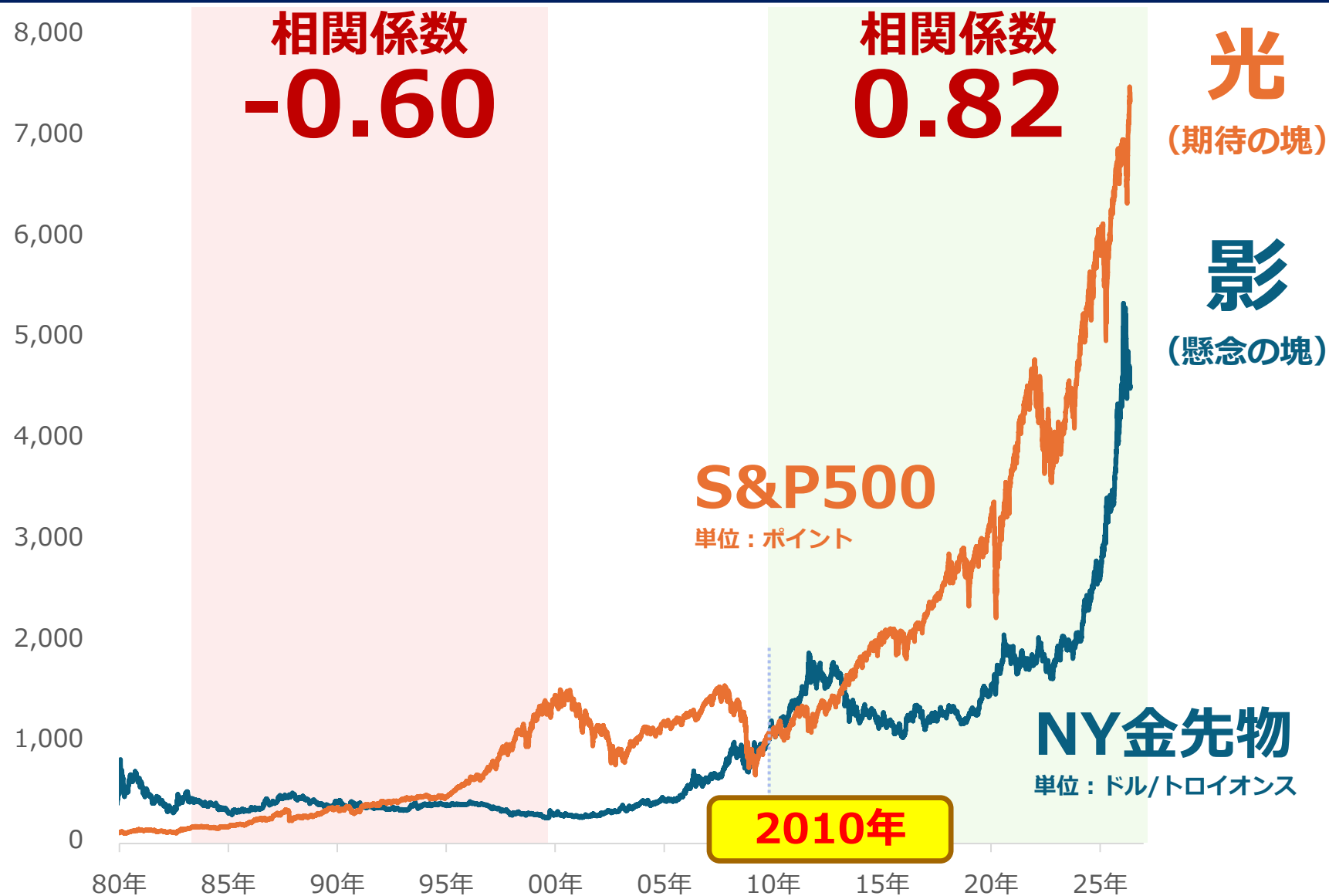
世界民主主義後退・分断深化・資源武器利用横行・
通貨価値希薄化懸念・長期視点のインフレ・
実態が乏しい構造的な株高とそれへの懸念・
光（期待）と影（懸念）の同時拡大、など

「非伝統的材料」が土台

出所：筆者作成

「非伝統的材料」「土台」は長期視点の金市場を分析する際の必須キーワード

● S&P500種指数、金（ゴールド）の価格推移



出所：ブルームバーグのデータをもとに筆者作成

株は光、金（ゴールド）は影の象徴。強く・濃くなり 両価格が長期上昇継続へ